

けんしゅうしましよ

8号
R5. 10. 6
文責 北垣

9月22日（金）帯広小学校教育研究発表会 ～特別支援部会～

◇事後研のグループ討議、アンケート結果から◇

<のぞみ>

見通しを持たせる手立て

本時の流れを板書で、単元の活動計画を掲示物で示すことで児童が見通しをもつことができていた。見通しをもたせることで、集中して取り組んだり主体的に活動したりすることができていた。

気持ちの表現をカードで

複数のカードを選択して表現することで気持ちの複雑さを表すことができており、心情の理解が深まるよい学びになっていた。（「楽しい」と「どきどき」→楽しかったけれど緊張した。）

集中を保つ学習展開

学習の中盤以降も児童が意欲的に発言しており、集中していることが伝わってきた。

他者を意識した取り組み

継続して関わる活動に取り組むことで「丁寧に書こう」「喜ばせるために頑張るぞ」という主体的な気持ちが育ってきているように感じた。

掲示物の工夫

学習の成果を掲示していくことで、経験を生かした学びをつくっていくことができていく。

伴走者として

支援の子どもたちには導く手が必要なことが多いと思うが、伴走者としてどのようなことを意識しているのかという質問に、子ども達の興味関心や実生活から単元を構成してきたと回答した。

<こもれび>

ICTの多様な活用方法

教室にいない児童と繋ぐ手段としての活用（こもれびと交流級、こもれびと自宅等）、自分たちの姿を振り返る手立てとしての活用など、活用の幅の広さを学ぶことができた。また、タイミングよく活用することで、児童の集中を保つためにも役立っていた。

授業内容の変更と交流級での学習

話し合う力をつける単元であるため、その目標を大切にしながらも児童の実態に合わせるため教科書にある活動内容を変更している。交流級に戻って意見交流する場合にどうしていくかを考えていく必要がある。

具体物の活用

具体物を用意し子どもたちが学習内容をイメージしやすくすることで、一人一人が目的意識を明確に持って学習に臨むことができていた。

主体的な学びのために

目標やまとめを子どもの発言から作っていくことで、児童が主体的に授業に参加できていた。

その他

体制づくりについて質問が出ており各校での現状の交流も行われました。また、共同学習の時間は交流学級担任に任せきりになる現状の苦しさについての言及もありました。さらに、児童の実態をどう教員間で情報共有しているのかについての質問があり、職員室の机配置等の工夫も話されていました。

<ことば>

変化のある取り組み

マンネリしがちな構音（発音）の指導に様々な変化を加えて工夫されており、子どもが楽しそうに取り組んでいた。

自分で学んでいく態度の育成

鏡で自分の口の動きをよく見ながら練習する姿が見られ、指導を受け身ではなく自ら学び成長していこうとする姿が見られた。

貴重な授業公開

ことばの授業公開はとても少なく、貴重な研修の機会となっている。

その他

取り出した授業への補填について困っているという声が上がっており、その対応について情報交換がされました。

◇助言者の先生から◇

≪松本指導主事より≫

- 教科学習の中でも、自立活動の視点をもって指導していく姿勢は大切にしてほしい。
- 教科の学習の中に共同学習を計画的に位置づけ、交流学級と密に連携しながら進めている姿はより多くの学校に学んでほしい姿である。
- 教科指導の目標や内容をどの程度変更し学習するのかについてはよく検討していく必要がある。
- 児童の実態や、自立活動等で教科の時間が減っている状況などを鑑み、学習の内容を精選することも考えていく必要があるのではないか。
- 単線型から複線型の授業へという視点を持ってほしい。どう学んでいくかを自分で選べるような授業づくりをすることで、個の実態に応じた支援をしていくこともできるのではないか。



≪加藤指導主事より≫

- 特別支援学級の児童、特に自閉・情緒学級の子どもたちとICTの親和性は非常に高い。今後も積極的に活用していてもらいたい。
- シンプルな教室環境づくりは、全ての学級において大切にもらいたい。選択的認知能力が弱い子どもたちに対する合理的配慮の最も基本的な部分である。掲示物はなるべく子どもたちの視線より後方へ掲示し、板書も統一感があるものがよい。
- ことばの教室の指導では、機能を高める指導に加え学習意欲を高める手立てがとられており、大変参考になる授業であった。
- 体の動かし方を指導する際、言葉での説明や見ただけでは、自分の体のどの部分を動かしてよいかわからない子どもが多い。動かす部分を実際に手で触れることで脳が初めて認識できることがあるのでぜひ活用してほしい。（特別支援以外でも）

